

中期経営計画2013

2011年6月3日
株式会社トプコン
取締役社長 横倉 隆

「TOPCON WAY」は「経営理念」、「経営方針」、「事業行動指針」を統合・再編し、トプコングループ最上位の価値観として新たに制定いたしました。

TOPCON WAY

- トプコンは、「光」のもつ可能性を探究し、未来に向けて新しい価値を創造し、豊かな人類社会の形成に貢献します。
- トプコンは、変化を先取りする先進性とコンプライアンス最優先の価値観により、すべてのステークホルダーから信頼される存在であり続けます。
- トプコンは、開発・設計、製造、販売、サービス、すべての段階で品質向上に最善を尽くし、信頼性の高い商品を提供し、お客様の事業を発展させます。
- トプコンは、代理店等の事業パートナーとの相互信頼とパートナーシップを尊重し、情報の共有と密接な連携により、共に事業を発展させます。
- トプコンは、社員とのコミュニケーションを大切にし、多様な個性や価値観、創造と革新の精神を尊重し、その能力を最大限発揮させます。
- トプコンは、国際・地域社会の一員として、人権・環境・労働・腐敗防止のグローバル基準を尊重し、持続可能な市場の構築に寄与します。
- トプコンは、株主に対し、適時・適切な情報開示を行い、信頼関係の形成と企業価値向上に努めます。



CONTENTS

中期経営計画2013

I TOPCON WAY

II 中計策定の背景

III 中期計画で目指すグループの姿

IV 中期アクションプラン

V 事業別成長戦略

VI CSR経営

I TOPCON WAY

**未来を創造する
トプコングループ共通の価値観**

トプコンの存在理念、存在条件

TOPCON WAY

存在 理念

光の可能性探求

新しい価値の創造

人類社会に貢献

存在 条件

変化を先取り
する先進性

変化を事前に察
知して行動する

コンプライアンス

法令遵守、社会規範・
倫理に従った活動

信頼される存在

ブランドへの信頼

Ⅱ 中計策定の背景

中計策定の背景

過去の振り返り

為替の影響

円高の進行により、売上・営業利益ともに大きな影響を受けている。

2010年度の業績を2007年度の為替レートで換算し直すと次の様になる。

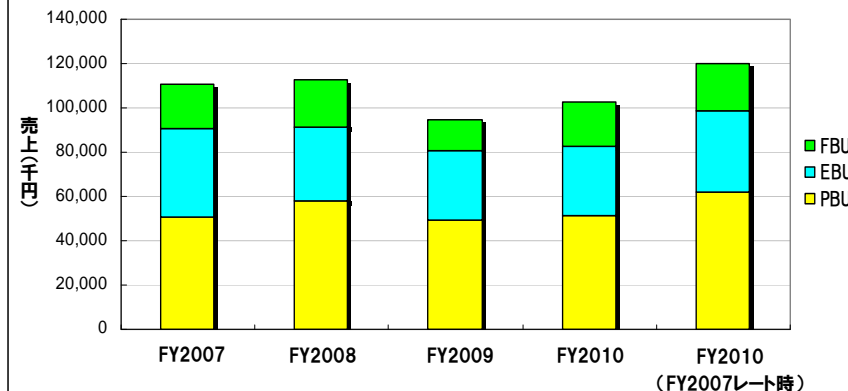
(単位:億円)

FY2010 FY2010 (FY2007為替レート)

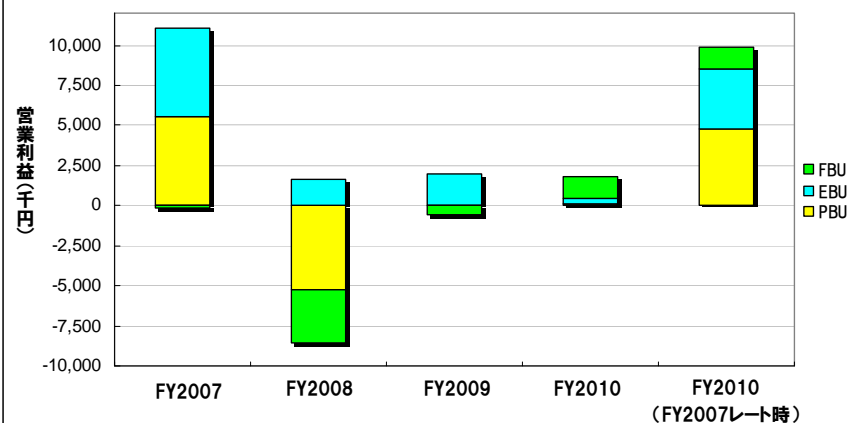
売上 1,025 → 1,200 (+175)

営業利益 18 → 100 (+ 82)

事業別売上推移



事業別営業利益推移



為替 レート	ドル	100.19円	98.23円	93.04円	85.82円	100.19円
	ユーロ	158.19円	129.84円	130.62円	113.56円	158.19円
	換算	期末	期末	期末平均	期末平均	期末

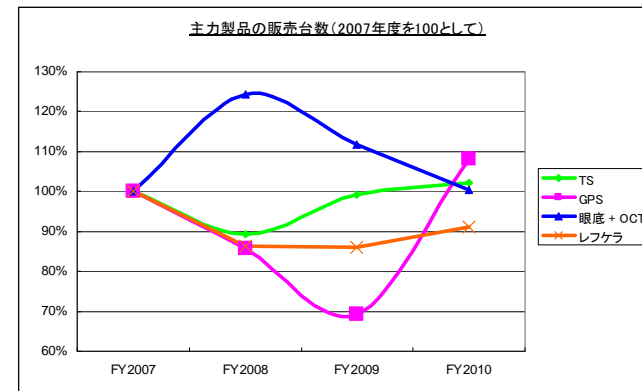
中計策定の背景

主要製品の物量（2007年度比較）

2008年度はリーマンショックの影響により需要が減退し、その後物量は2007年度レベルに回復。

※眼底カメラは2008年度にポラロイド特需で急拡大。

売価ダウン



外部環境の変化に左右されない経営体制の構築が急務

中期計画のローリング

国、地域

新興国に注力
回復基調の
地域に注力

事業、分野

新事業、新分野
に注力
成長事業育成

商品

差異化製品、
低コスト製品
持続的成長実現

生産

最適生産体制構築
為替リスク分散、
低コスト製品投入

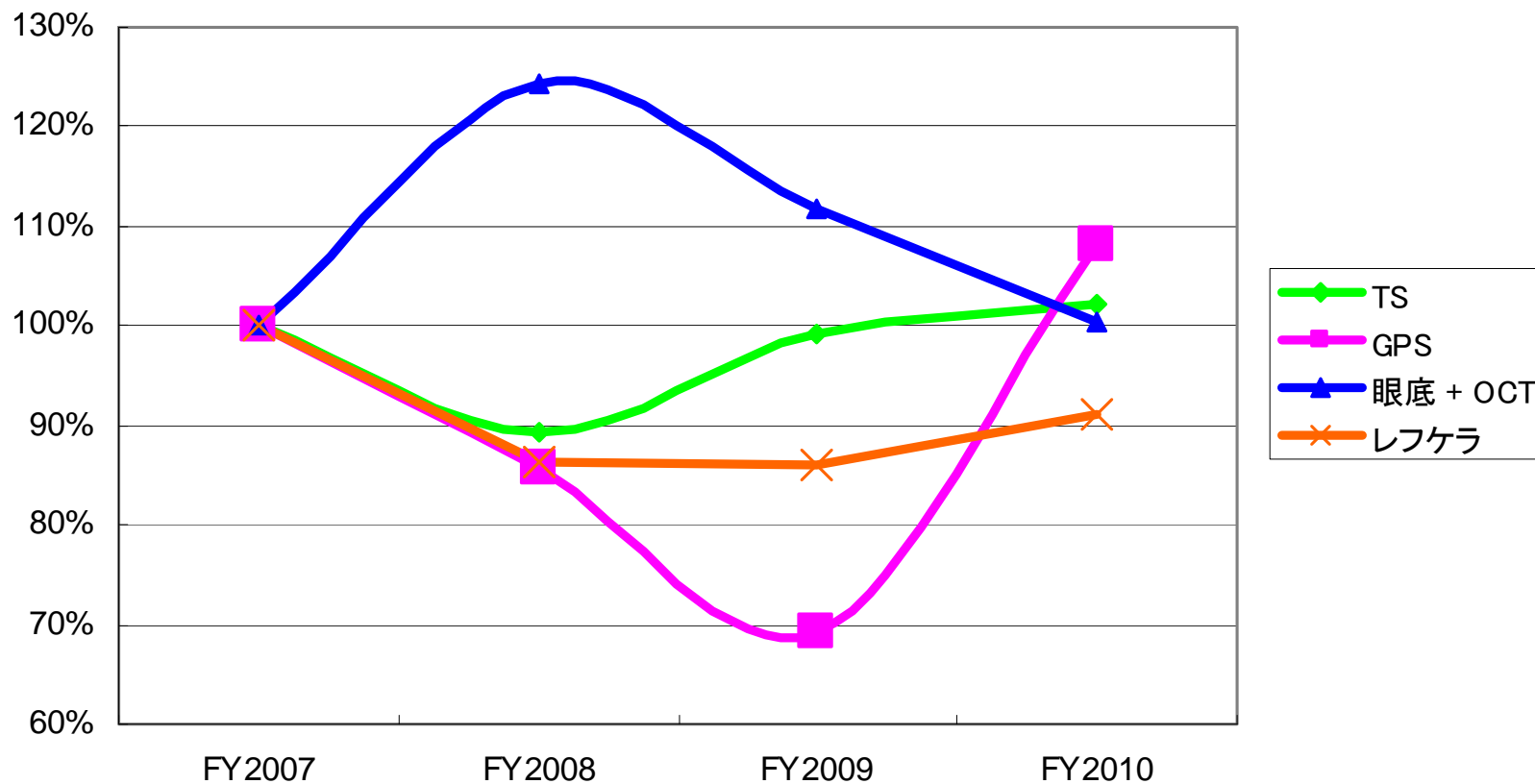
調達

最適調達体制の
強化
コスト低減

事業構造改革

中計策定の背景

主力製品の販売台数(2007年度を100として)





Ⅲ 中期計画で目指す グループの姿

連結業績目標(全社)

(単位:百万円)

← 中期経営計画2013 →

[連 結]	2009	2010	2011	2012	2013
売上高	94,862	102,470	100,000	110,000	120,000
営業利益 (営業利益率)	1,405 (1.5%)	1,799 (1.8%)	3,000 (3.0%)	8,000 (7.3%)	12,000 (10.0%)
経常利益	545	608	1,700	6,800	11,000
当期純利益	133	△1,288	800	4,400	7,000
ROE	0.3%	△3.3%	2.2%	11.6%	16.4%
総資産回転率(回転/年)	0.77	0.82	0.83	0.92	1.00
1株当たりの年間配当(円)	4円	4円	4円	10円	16円
連結配当性向	277.0%	-%	46.3%	21.0%	21.2%

*注記：中計期間中の為替換算レートは、US\$が80円、€が110円を前提とします。

連結業績目標(セグメント別)

(単位:百万円)

← 中期経営計画2013 →

[連結]		2009	2010	2011	2012	2013
売上高	ポジショニング	49,350	51,559	51,000	56,000	62,000
	アイケア	31,561	30,946	32,000	35,000	37,000
	ファインテック	13,950	19,964	17,000	19,000	21,000
	合計	94,862	102,470	100,000	110,000	120,000
営業利益	ポジショニング	6	130	1,300	4,000	6,000
	アイケア	1,963	307	1,500	3,000	4,000
	ファインテック	△564	1,362	200	1,000	2,000
	合計	1,405	1,799	3,000	8,000	12,000

資源投入計画

(単位:百万円)

← 中期経営計画2013 →

[連 結]	2009	2010	2011	2012	2013
設備投資	2,109	4,499	5,000	3,300	3,000
(減価償却費)	(3,992)	(3,008)	(3,200)	(3,800)	(4,000)
研究開発費 (売上高研究開発費比率)	9,609 (10.1%)	10,275 (10.0%)	9,500 (9.5%)	9,900 (9.0%)	10,300 (8.6%)
投資・融資	2,519	5,302	3,000	5,000	5,000

「営業利益」増減益要因分析

[連結]

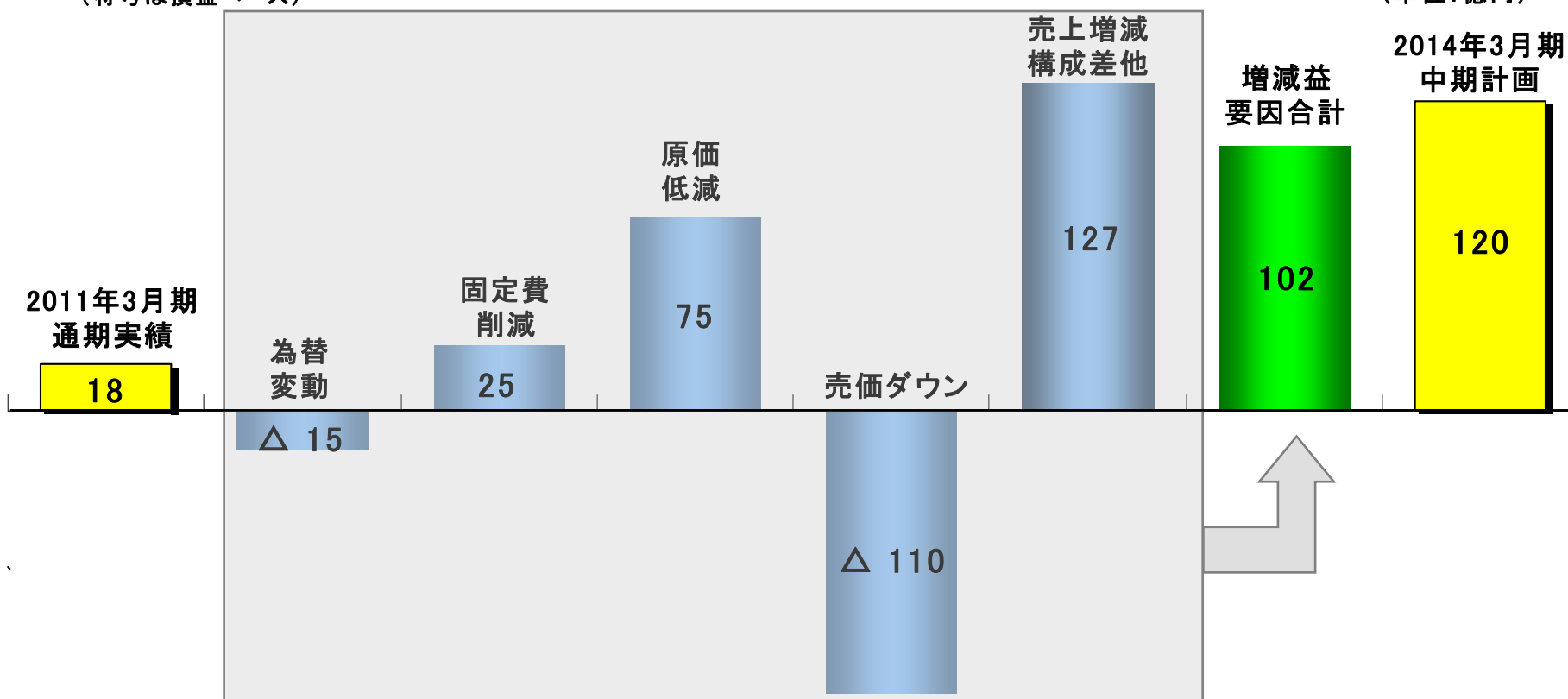
2011年3月期
通期実績



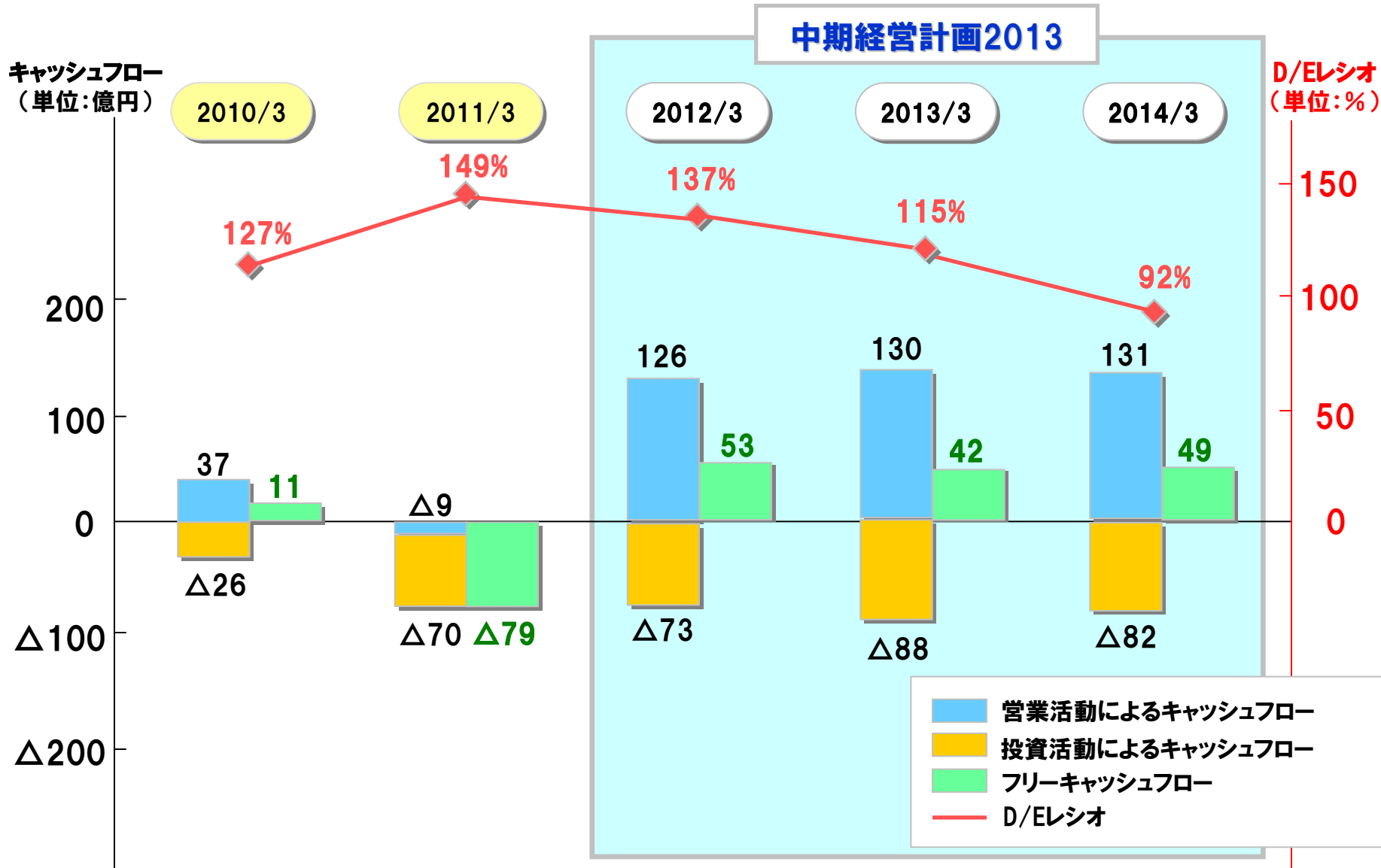
2014年3月期
中期計画

(符号は損益ベース)

(単位: 億円)



連結キャッシュフロー



IV 中期アクションプラン

中期アクションプラン

事業構造改革

総コスト削減戦略

原価低減

- ・VA/CD活動の強化
- ・海外調達強化

人員規模の最適化

- ・人員適正化
- ・国内生産拠点の統廃合

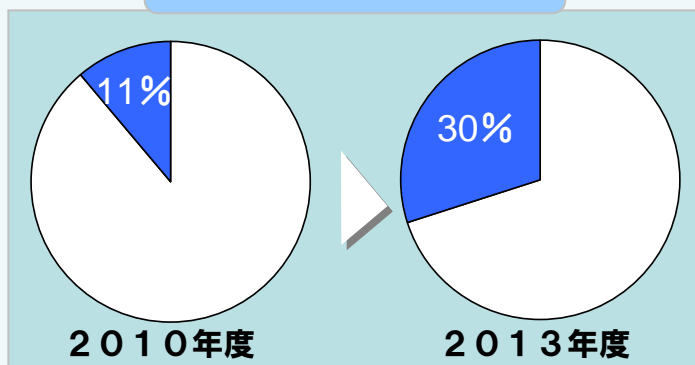
業務プロセス改革

- ・ERP導入
- ・品質向上プロセス改革強化

目標削減額

100億円

海外調達比率

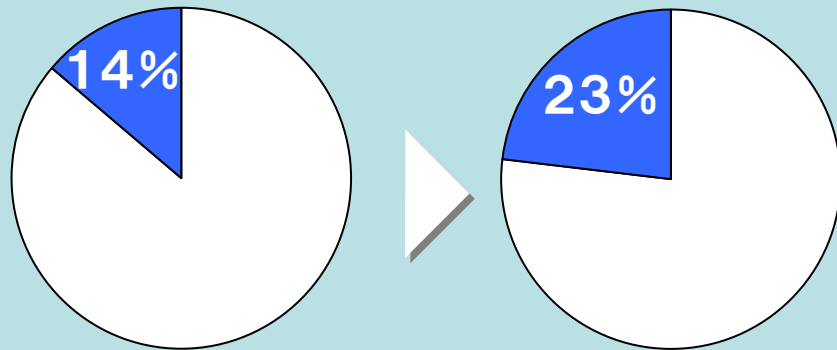


生産効率



中期アクションプラン

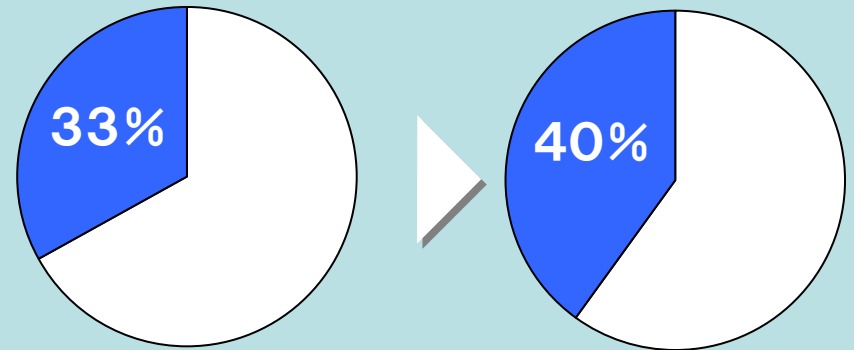
新分野売上高比率



2010年度

2013年度

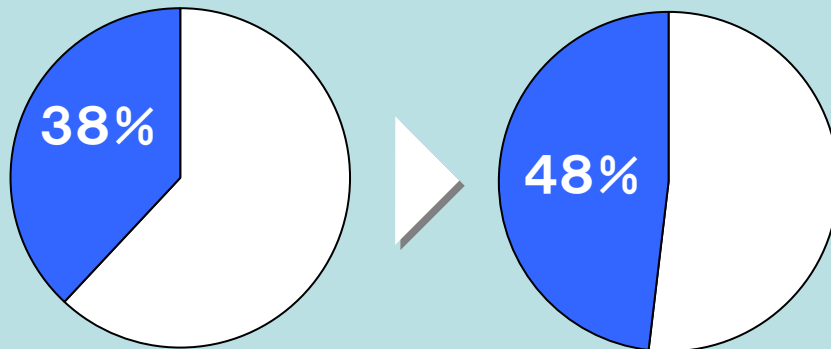
新興国売上高比率



2010年度

2013年度

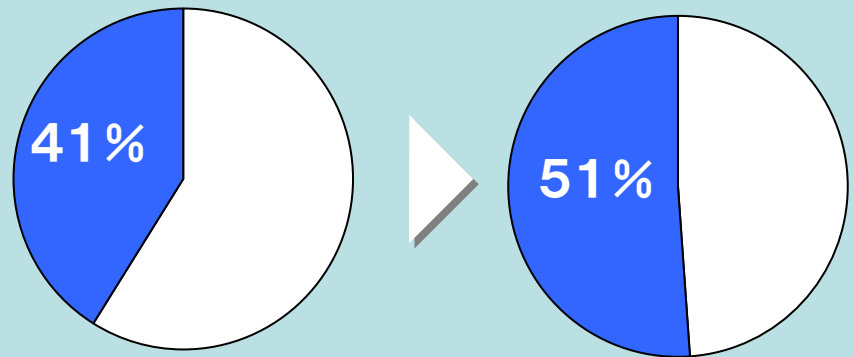
海外生産高比率



2010年度

2013年度

新製品売上高比率



2010年度

2013年度



V 事業別成長戦略

POSITIONING



Change Your World



地域別

● 米州
● ヨーロッパ
● 日本
● 成長国

	FY10	FY11	FY13
米州	→	→	→
ヨーロッパ	→	→	→
日本	→	→	→
成長国	→	→	→

《FY10 状況》

- ▶ 円高の影響大
- ▶ 欧米は年度終盤にかけて徐々に上向き
- ▶ 成長国の市場拡大

《FY11～FY13 予測》

- ✓ 欧米は上向き
- ✓ 日本は震災復興需要への期待と下振れリスク混在
- ✓ 成長国は堅調さが続く

市場別

● 土木
● IT農業
● 測量・GIS
● 計測

	FY10	FY11	FY13
土木	→	→	→
IT農業	→	→	→
測量・GIS	→	→	→
計測	→	→	→

《FY10 状況》

- ▶ 土木・建設市場は緩やかながらも回復
- ▶ IT農業、計測関連は堅調維持

《FY11～FY13 予測》

- ✓ 土木・建設市場の回復による市場牽引
- ✓ IT農業、計測市場は確実な成長が続く
- ✓ 成長国では各分野でIT化が進む

■ソキア統合の成果

統合による経営効率の向上

■建設市場

土木・建設・建築現場のIT化を牽引

■IT農業

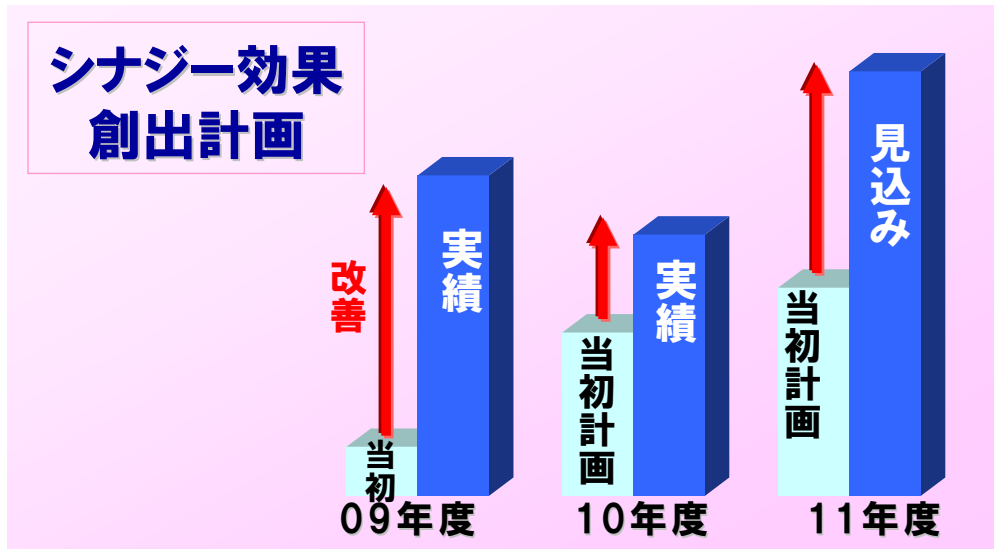
技術革新による“農業革命”

■移動体計測・三次元計測市場

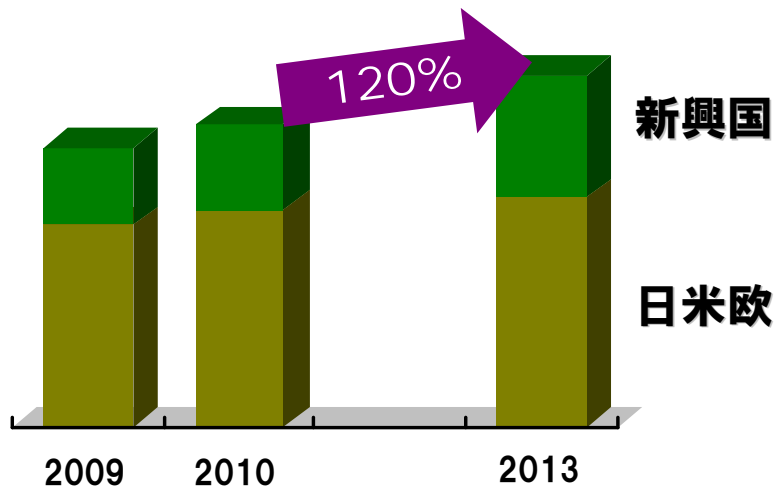
技術革新で計測作業の最大効率化

■新興国への展開（アジア、中東、アフリカ）

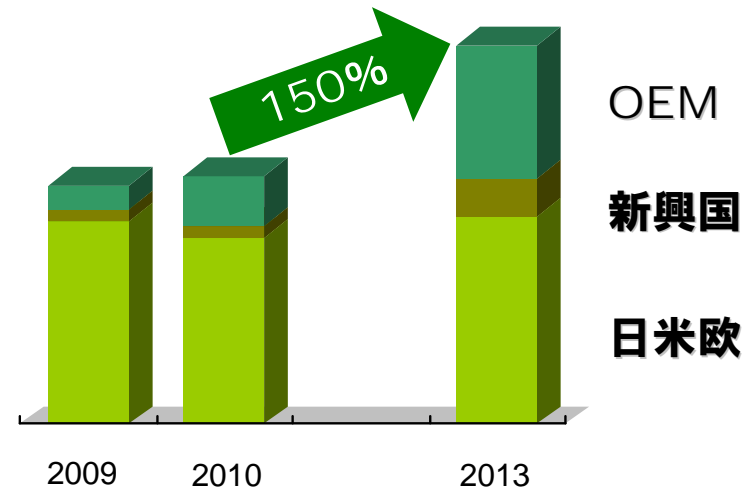
新設拠点の機能拡充

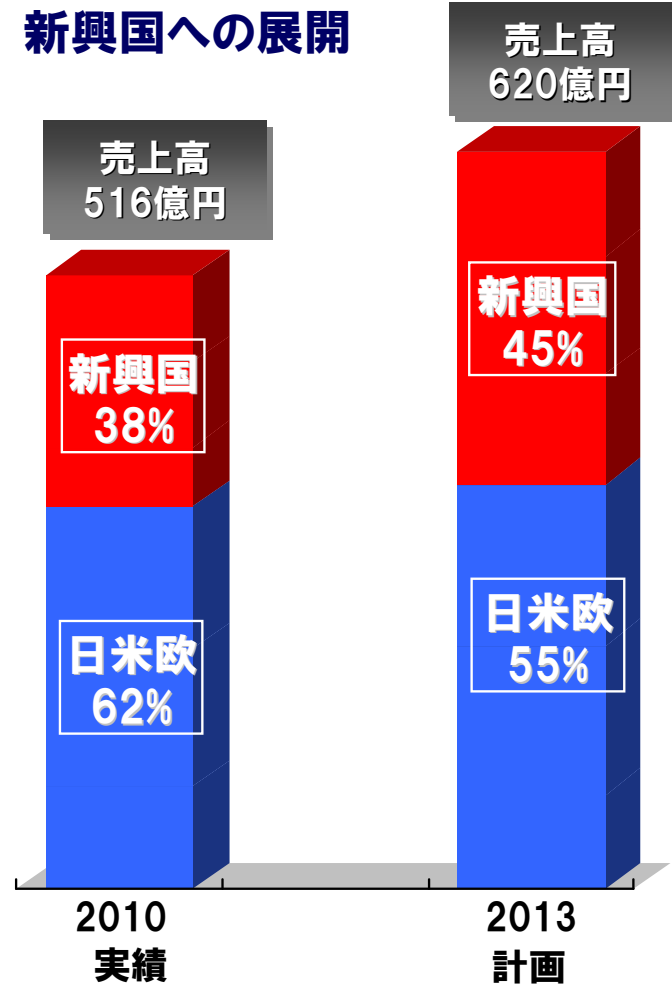
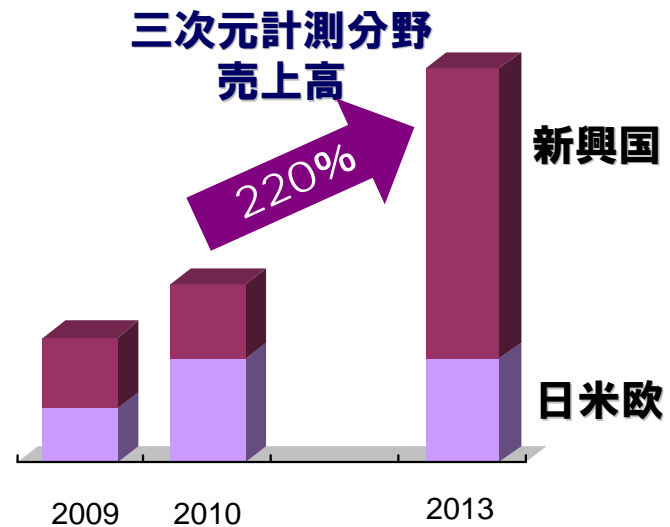
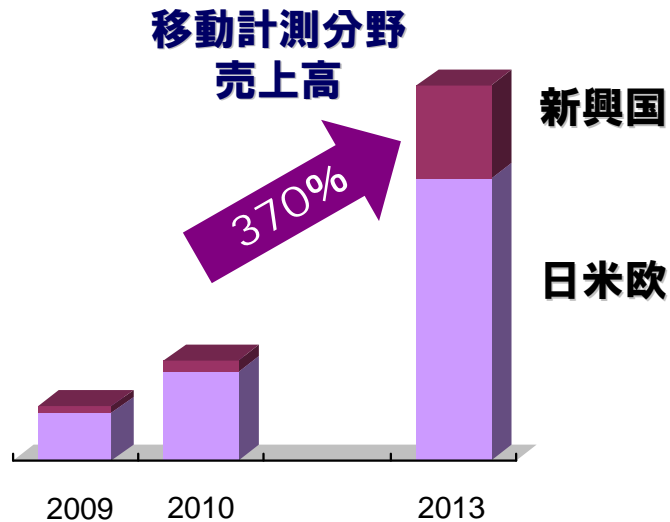


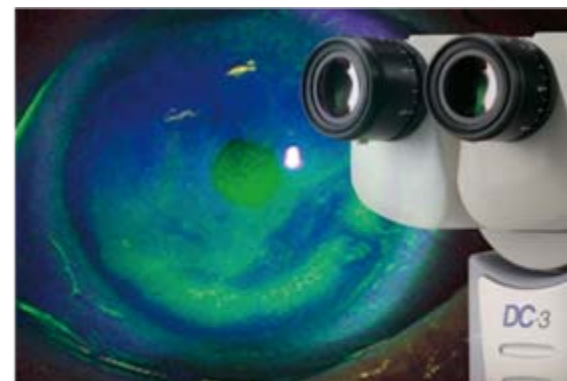
建設分野売上高



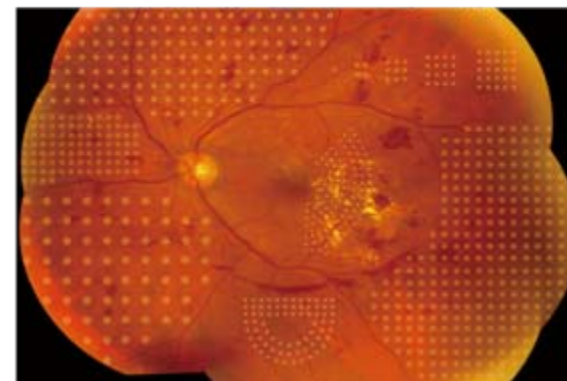
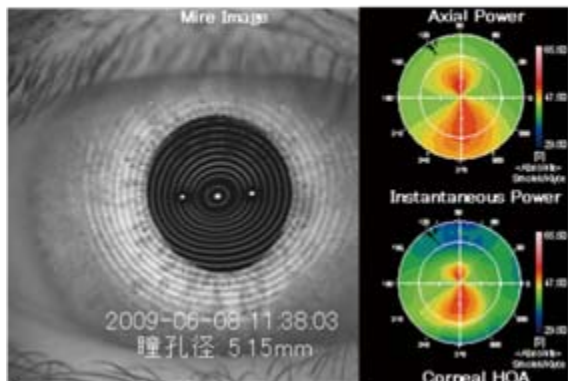
IT農業分野売上高







世界中の人々の眼の健康のために Connecting Visions



地域別

● ヨーロッパ
● 米州
● 日本
● アジア

FY10 FY11 FY13

→	→	→
→	→	→
→	→	→
→	→	→

《FY10 状況》

- ▶ 欧米設備投資伸びなやみ
- ▶ 日本健診市場伸長
- ▶ アジアは中国堅調、インド伸長

《FY11～FY13 予測》

- ✓ 欧米は緩やかに回復傾向
- ✓ 日本は開業医層を中心に堅調な推移を維持
- ✓ 伸長続く中国・インドを筆頭にアジア回復傾向

市場別

● 眼科
● 眼鏡
● 糖尿病・緑内障 スクリーニング

FY10 FY11 FY13

→	→	→
↓	→	→
→	→	→

《FY10 状況》

- ▶ 眼科設備投資手控え。入札案件減少
- ▶ 眼鏡設備投資低迷。低価格化・差別化競争へ
- ▶ スクリーニング市場伸長

《FY11～FY13 予測》

- ✓ 眼科設備投資引き合い増加
- ✓ 眼鏡市場はチェーン店向け低価格・差別化競争激化
- ✓ 予防医学への意識の高まり、スクリーニング市場拡大



予防・健診

システムソリューション

低侵襲治療

ビジネスドメインの拡大

現在のビジネスドメイン

予防・健診

検査

診断

治療

システムソリューション

検査データ・画像を Connect して、早期診断から治療までの最適なソリューションを提供致します

■OCT

- ・開業医・海外のオプトメトリスト向け商品ラインナップ増強
- ・健診市場・新興国市場向けに普及型商品投入
- ・治療器とのシステム連携でシナジーを発揮

■治療器

- ・他社の追従を許さない新世代パターンレーザー機器市場投入
- ・網膜イメージング機器とのシステム連携

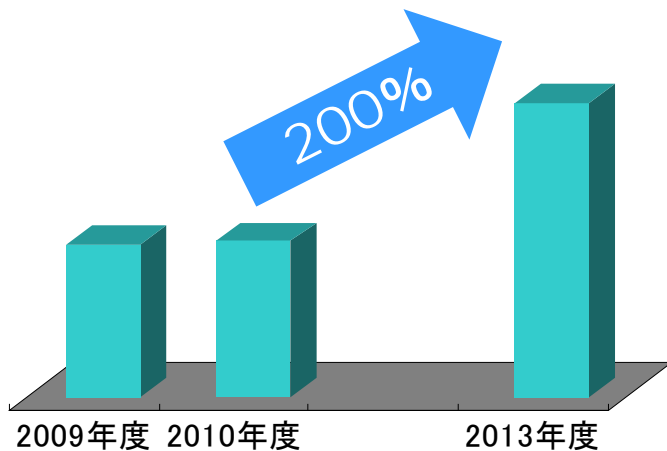
■ITソリューション

- ・世界的な医療IT標準規格に対応
- ・クラウドコンピューティングに対応 ⇒ 遠隔診療システムの構築

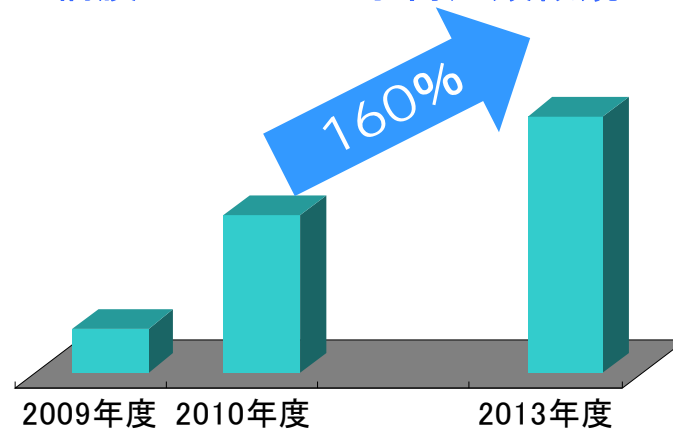
■新興国地域での販売拡大

- ・ローエンド製品中国生産加速、拡販体制整備
- ・スクリーニング市場シェア拡大

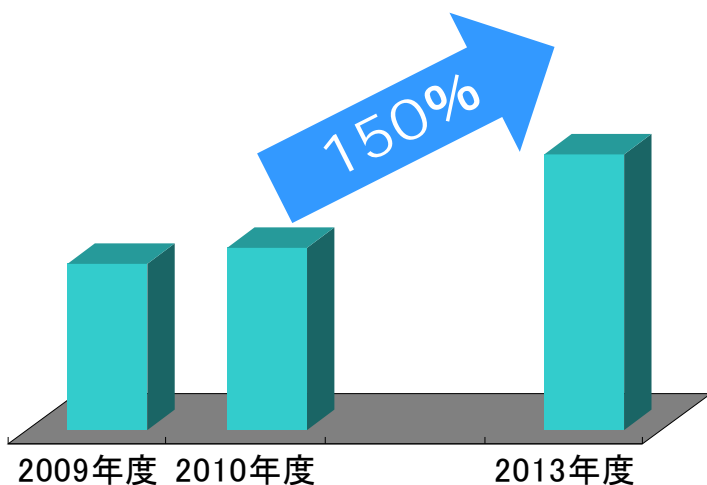
OCT売上高



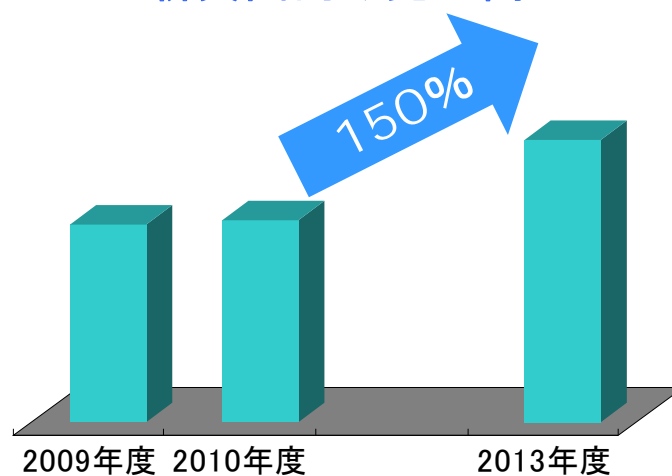
治療器売上高 -網膜レーザー + 手術用顕微鏡-

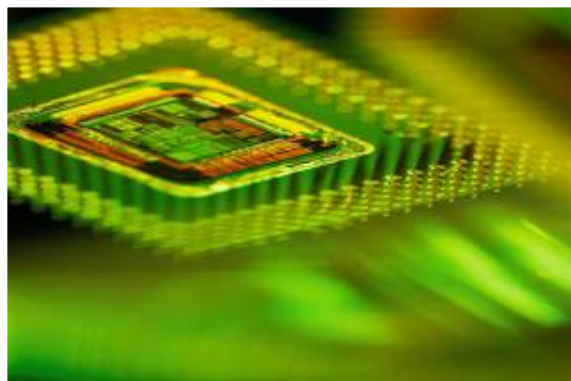


ITソリューション売上高



新興国向け売上高





光と電子ビームで成長分野に答える



地域別

	FY10	FY11	FY13
● 北米	→	→	→
● ヨーロッパ	→	→	→
● 日本	→	↘	→
● アジア	→	→	→

《FY10 状況》

- ▶ エレクトロニクス関連設備投資の回復
- ▶ スマートフォン・タブレットPCの活況

《FY11～FY13 予測》

- ✓ 新興国のエレクトロニクス製品需要が伸長
- ✓ 円高定着による国内企業の減益

市場別

	FY10	FY11	FY13
● 半導体	→	→	→
● FPD	→	→	→
● 光デバイス	↘	→	→

《FY10 状況》

- ▶ 環境デバイス、SSDが堅調に推移
- ▶ モバイル製品需要が市場を牽引
- ▶ 液晶パネル LEDバックライト化の加速
- ▶ タッチパネル搭載製品の普及

《FY11～FY13 予測》

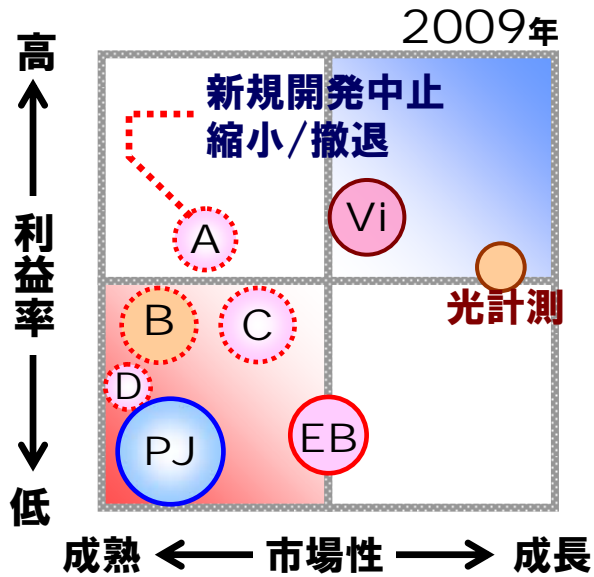
- ✓ 半導体設備投資 後半ピークアウトへ
- ✓ タブレット・スマートフォン市場の急拡大
- ✓ 高精細液晶パネル 設備投資の増加
- ✓ 光ディスク市場の縮減

● 事業構造の変革加速

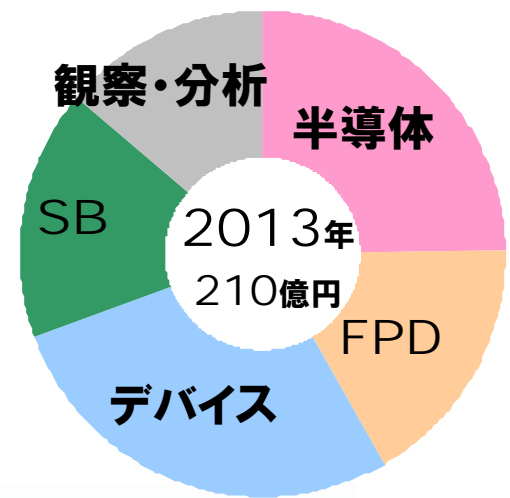
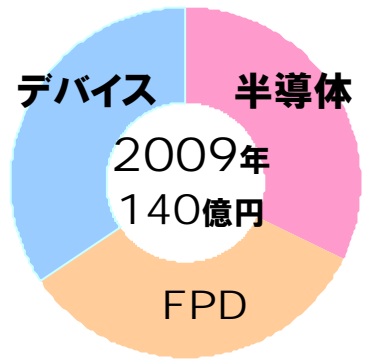
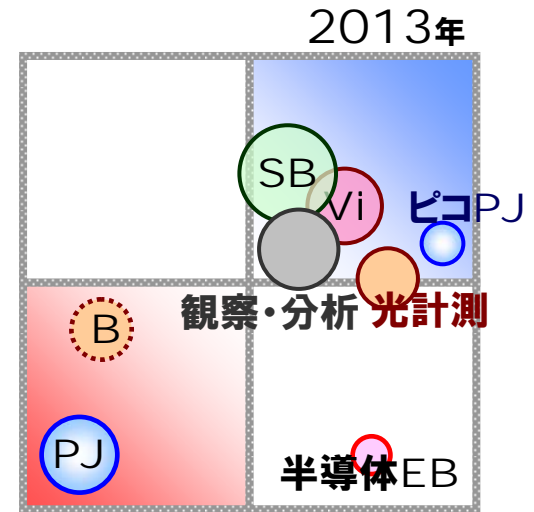
- 事業ポートフォリオの継続的見直し
- 外部連携による新市場・新領域への参入

● 重点事業の強化

- 重点製品の深耕 (LED/半導体パッケージ/タッチパネル)
- 海外における生産・販売・開発拠点の拡充



外部連携の活用



事業ポートフォリオの継続的見直しを実施

■サブストレート関連

- ・3Dバンプ検査装置
- ・投影露光装置（ステッパー）

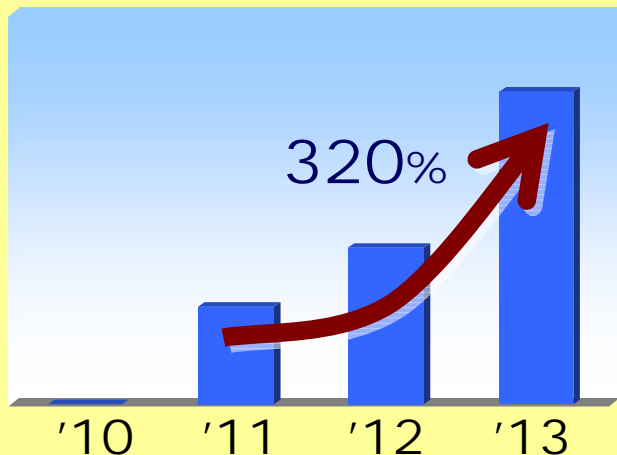
■環境・エコ分野

- ・LED 光計測器
- ・LED チップ外観検査装置

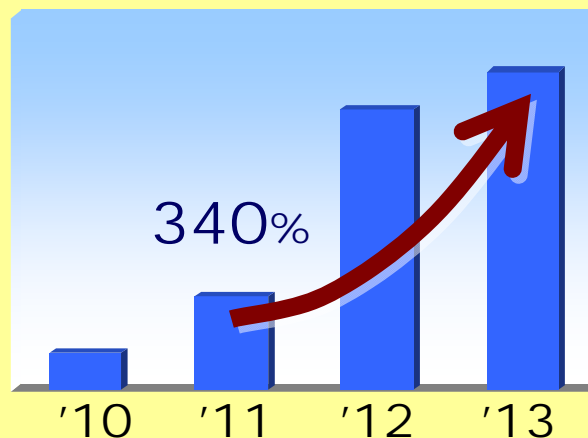
■EB / プロジェクタ関連

- ・複合小型SEM
- ・ピコ・プロジェクタ

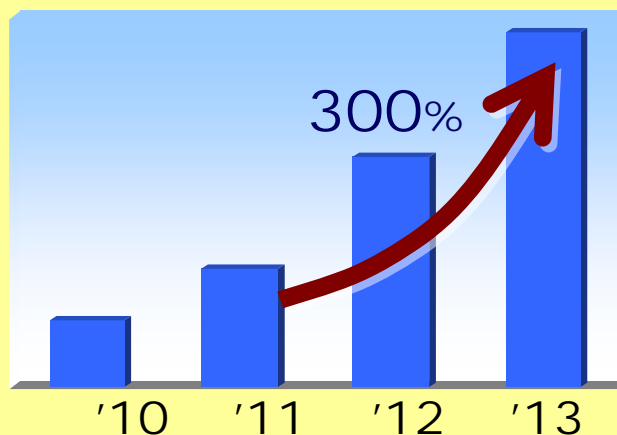
【複合小型SEM 売上計画】



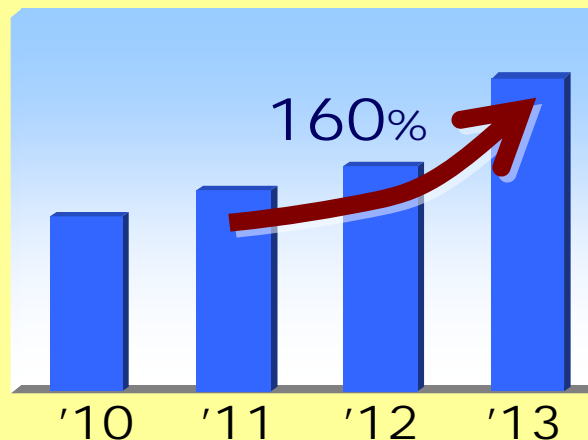
【ピコPJ 売上計画】



【サブストレート関連装置 売上計画】



【LED関連装置 売上計画】



VI CSR經營

CSR経営推進：地球温暖化防止への取り組み

製品を通じたCO₂削減活動

製品消費電力削減
20%以上

環境調和型製品販売比率64%以上

環境ビジョン2020
▲25%削減(国内)

製品本体の
省エネ

製品が使われる
現場への環境貢献

エコ製品の製造
プロセス貢献

製造工程
の省エネ

機能の統合、LED
光源の使用などによる省エネ設計



工事現場・農作業
現場などの自動化・
省力化



液晶ディスプレイ・
太陽電池などの
製造工程での品質
検査



生産設備・工程の
効率化を推進
次世代LED照明など
高効率機器の導入



当資料取扱上のご注意

本資料に記載の業績見通し、並びに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、計画のもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。

実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、これらの業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきます様、お願い申し上げます。

お問い合わせ先
(株)トプコン 経理グループ
広報・IR部まで
TEL:(03)3558-2532
E-mail : investor_info@topcon.co.jp
URL : <http://www.topcon.co.jp>